

子供たちの 将来のために

株式会社オリバー・
ミクスネットワーク社長

大川 博美 氏



教育随想



平成23年6月1日

6月号

発行・編集
岡崎市教育委員会

今月の紙面

教育随想	1
株式会社オリバー・ ミクスネットワーク社長 大川 博美氏	
この人に聞く	2
日本トライアスロン連合強化委員 千葉 智雄氏	
羅 針 盤	2
上地小学校長 安藤 真好	
ふれあい	3
緑丘小 鈴木 美佐	
特 集	4
人 歴史 自然とふれ合う 修学旅行 - 中学校編	
お知らせ	6
フォト・ヒストリー ...	8
男川での水泳の授業	
この本を	8

多くの子供たちは、将来自分がどのような職業で一生頑張っていくかを考えていると思います。時代は刻々と流れており、日本も世界と同じように日々変化しています。子供たちが満二十歳になったころ、または大学卒業後には大きく社会は変化するでしょう。そのときにどのような変化にもついていける対応力を身につけることが大切であり、社会が求める人間としての基礎能力が必要だと思えます。

人間は歳とともに考え方が変わってきます。転職することもあります。基本は基礎学力であり、『企業は人なり』と言われる。学生の間には基本的な知識を身につけることが重要であり、また視野を広くもち、日本だけではなく世界に目を向ける必要があります。

自分の進むべき道を究め、できるだけ早く邁進しなければなりません。世の中は自分の思うようにはな

りません。将来就いた職業で、真剣に仕事をしていかないと社会は認められません。

子供たちは、日本が資本主義国家であることがまだよくわからないと思いますが、資本主義国家は個人の能力によって将来の収入が違います。そういうことも学生の間から指導していくと大変役に立つと思えます。

また、人間関係も重要です。私は同級生がとても大切であると考えます。何歳になってもどんな職業に就こうとも、同級生は同級生であり、いろいろと話ができ、人生で大変必要な存在であるのです。

私は中学校教員を十年間勤めた後、時代の変化に目を覚まし実業界

に入り、八十歳となった今でも現役社長をしております。現在では売上高約二百億円の企業となり、業界では日本を代表する企業となりました。またCATV会社のミクスネットワークも経営しており、岡崎の情報発信基地となるまで成長しました。教育の情報がありましたら、是非放送いたしますので宜しくお願いします。

これからも、子供たちにも大きな夢をもって成長できるように教育してください。そしてその教育が子供たちの原点であることを忘れないでください。

(おおかわ ひろみ)



この人に聞く



最後まで諦めない

日本トリアスロン連合強化委員

千葉 智雄 氏

「オリンピックや世界大会でメダルをとることができる選手を育てたいですね。」

今年四月、沖縄に続いて競技人口の多い愛知県に、二つ目のトリアスロン教室を立ち上げた千葉さんに、帰郷された折にお話を伺った。「中学時代は、大会で結果が残ることがうれしくて、楽しんで練習しました。努力の大切さをこの時期に感じ取ったのでしょね。」

千葉さんは、竜海中学校で水泳と駅伝の選手として活躍された。そんな千葉さんがトリアスロンと出会ったのは、大学一年生だった。初出場した伊良湖国際大会の結果は散々だったそうだ。

「水泳はインターハイで四位になり、走るのも得意だったので、自信

はあったのですが……。スイムはトップでしたが、バイクとランでごぼう抜きされてしまいました。」

トリアスロンは、スイムが一・五キロ、バイクが四十キロ、ランが十キロの長丁場で行われる。

「どれか一種目で失敗しても、残りの二種目でカバーできるところがトリアスロンのおもしろさです。」

ご自身を負けず嫌いの性格だと語る千葉さん。

「諦めなければ何とかなるというトリアスロンの魅力に惹かれ、必死に練習しました。」

正式種目となった二〇〇〇年のシドニーオリンピックは、当時二十七歳の千葉さんにとって、精神的にも肉体的にも最後の挑戦の場となった。しかし、夢は叶わず、補欠選手に選ばれるにとどまった。

そんなとき、突然日本代表コーチとしてシドニーオリンピックに参加してほしいという依頼が来た。現役引退後は指導者として世界を目指したいと考えていた千葉さんは、快く引き受けた。四か月という短期間ではあったが、効果的なトレーニングが実を結び、指導した選手は日本人最高の十四位の成績を収めた。

「オリンピックの雰囲気は特別でしたね。世界で通じる選手を育てたいと強く思うようになりました。」

オリンピック後は、選手育成を目的にトリアスロン教室を開いた。現在スクールに通う選手のなかには、ロンドンオリンピックの日本代表を狙える選手もいる。しかし、指導者として、選手の育成が順風満帆



であったわけではない。「トリアスロンは、まだまだメジャーなスポーツではないから、スポンサーが付いてくれないければ、収入も遠征費もなくなります。生活できなくなると引退に追い込まれる選手や、スランプから抜け出せない選手もたくさんいます。選手の育成は本

当に難しいですね。」

選手と一緒にいる時間を多くし、互いに言いたいことを言える関係を作るように意識しているという。

「壁を乗り越えたときには、新しい世界があります。でもそれは、乗り越えた者にしか見えません。諦めずに頑張れば、世界は広がるのです。」

最後に子供たちへのメッセージをもらった。

「子供たちには競技の楽しさだけでなく、練習を通して地道に努力する姿勢を身につけてほしいですね。やってできないことはない。そんな気持ちになれば、何にだって挑戦できるはずですよ。」

気持ちの入った力強い言葉を語る千葉さんの視線の先には、来年のロンドンオリンピックで活躍する教える子の姿が映っているに違いない。

氏名 ちば ともお
生年月日 昭和四十六年六月三日
住所 沖縄県那覇市



知ることにより優しさを育む

上地小 校長 安藤 眞好

三十年前に担任した特殊学級には、一年から六年まで十三名の児童が在籍していた。教室から飛び出す子がおり、一人の保護者をお願いをし、指導のお手伝いをしていただいた。現在は、三名の教師で指導に当たることができるようになっており、恵まれた状況に変わっている。

四年前より特別支援教育となり、特別支援学級では、個別の指導・支援計画を踏まえて、一人一人にきめ細かな働きかけがなされている。また、市内には障がい種別の特別支援学校がそろうっており、専門家による障がいに応じた指導がなされている。

こうしたなかで今注目されているのは、通常学級に数名いる発達障がい児の指導である。私は、この子らを担任する教師が、特別支援教育への関心を高め、障がいに配慮した指



一步を踏み出したA子

緑丘小 鈴木 美佐

五年生に進級したA子は、人前での話をすることを苦手としていた。そのため、ごく親しい友達しかA子本来の優しさや真面目さなど、優れた面を知らないように感じられた。A子が自分のよさを発揮し、自信をもって行動できるようになってほしいと願った。

五年生になってALTによる英語の授業回数が増えた。しかし、A子だけでなく、学級の子供たちにとっても戸惑いの連続だった。「極力英語で授業を進めましょう」というALTの提案で、日本語での補助が少なかったからだ。そのため子供たちは、これから何をやらなければならないか理解できないことが多かった。そのようなときは、担任教師がジェスチャーをつけたり、子供たちに分かりそうなキーワードを繰り返して言ったりした。それでも子供たちは何をしたらいいかわからず、「分からん」を連発

した。A子の顔から、笑顔が消えていった。

このままでは英語が苦痛になってしまおうと危機感を抱いた。子供たちに楽しませながら英語の授業を進める方法はないかと考え、ジェスチャーをつけて思いを表現させてみようと思い立った。

まず、よく使うあいさつを題材に、英語を言いながらジェスチャーをつけたり表情を変えたりする学習活動を位置づけた。喜怒哀楽をオーバーに表現すると、子供たちはそれにのってさらに大きく表現するようになってきた。

「How are you?」子供たちは、手の動きや顔の傾きをまねて楽しむようになった。聞くときも答えるときも表情がぐんと豊かになった。

次に、子供たち一人一人の好きな食べ物や飲み物を英語で答える練習をした。それぞれが好きな食べ物を画用紙に描き、それをフラッシュカードにして繰り返し練習した。子供たちは、絵が替わるとその食べ物を描いた友達を見て楽しそうに発音した。自分の番が来ると、恥ずかしそうにしながらも、うれしそうにしていた。A子も前をしっかりと見ていた。

食べ物の英単語が迷わず口から出てくるようになった後は、好きか嫌いかを子供たち同士で聞き合った。

「Do you like?」フラッシュカードが替わるたびに

文章を変えなくてはならないので、子供たちの声は、はじめはたどたどしい。しかし、ジェスチャーをつけると自然に言葉がスムーズに出てくるようになった。

A子も、相手に聞きながら自然に手が動き、友達顔をのぞき込んでいた。そして相手の答えに、「Oh! Really?」と、とっさのリアクション。すてきな瞬間だった。

次の質問相手を探し始めたA子に、「感激しちゃったから、ぜひみんなの前でさっきのをやって見せてよ」と声をかけると、恥ずかしがっていたが、その後もA子は何人もの子と会話をし、「Oh! Really?」をつけて練習していた。

最後に、「みんなの前でやってくれる人」と声をかけたとき、そろそろと手を挙げたA子の指先は、ぴんと伸びていた。



導ができるようになってほしいと願わずにはいられない。そのためには、該当の子に目を向け、親しく声かけしたり、様々にかかわったりして、自らがその子の障がいへの理解を深められるように熱意をもって臨んでほしい。そうした教師の姿勢は、それを見ている学級の多くの子供たちを感化する。周りからの障がい児へのかかわりも増え、学級全体に温かな雰囲気醸し出すこととなる。

自閉児の母親からなる「岡崎キャラバン隊」は、学校で福祉教室を開き、子供たちに自閉児の理解・啓蒙を図っている。子供たちは、自閉児の認識の仕方を疑似体験することにより、どのようにかわかるとその子にこちらの思いが伝わるのかを学んでいく。そして、子供たちは、わが子と仲良くかわかってほしいという母親たちの気持ちもしっかりと受け止めていく。自閉児のことを知った子供たちは、その後次第に、障がいのある子への眼差しが温かくなり、優しく接するようになっていく。

特別支援教育部は、先生方の特別支援教育の専門性を高めていただくべく、二十年度より「かいはつ塾」を開催している。大勢の参加者が、年十回の夕方、熱心に学んでいる。



「人 歴史 自然とふれ合う 修学旅行」 ～ 中学校編 ～

▲鎌倉の寺で座禅体験（矢作中）

中学校の修学旅行で、学級別に見学地を選んだのは、昭和五十五年の矢作中学校が最初であった。現在では、各学校がそれぞれねらいをもって、学級別・班別活動を取り入れ、見学地や見学方法を選択し取り組んでいる。

額田中学校では、「人とふれ合う」をテーマに、都内の中学校と合唱を通して交流する活動を取り入れた。そこへ至る過程で学級の和を深めていこうというものである。また、岩津中学校では、十八か国の留学生を国際理解学習の講師として都内に招き、英語でコミュニケーションをとりながら、班ごとに留学生とその国の料理を食す会を設けている。大使館での学習も含め、緊張感と充実感をともなった国際理解教育の体験活動である。

城北中学校では、岡崎とつなぐ家康公「歴史にふれる」活動をしている。家康公の生誕地岡崎城を学区に含む城北中生が、家康公の霊廟日光東照宮に手土産の八丁味噌を携えて参拝する。学校創立から続く伝統的活動である。

また、東海中学校では「自然にふれる」体験活動を実施している。大自然のなかで、マウンテンバイクやラフティング等の野外活動を学級ごとに満喫し、夜は富士五湖周辺のペンションに宿泊するのである。

さらに、修学旅行後のまとめ活動にも各校の工夫が見られる。個人や班ごとにまとめたものを掲示したり、文化祭や保護者会での班別報告会を実施したりしている。

それぞれの学校で、その学校や学年独自の修学旅行が実施されている。生徒がいて、その生徒たちにこの経験をさせたい、この力を付けさせたいと願う教師がいる。「教師の願い」の数だけ独自の修学旅行がある。

三年間を見通した 学習計画

職業学習の一環としての
修学旅行（六北中）

一年生「職場見学」

保護者など身近な人の職場を見学し、仕事への興味や関心を高める。

二年生「職場体験」

興味のある職業や職種を選び、近郊の事業所で体験学習を行って仕事への理解を深める。

三年生「職場訪問」

修学旅行で都内の事業所を訪問し、自分の将来について具体的に考え、望ましい進路を選択しているという姿勢を育む。



▲都内の事業所で職場訪問（六北中）

人とふれ合う



▲コートジボワール大使館での研修（岩津中）



▲狛江第四中(東京都狛江市)との合唱交流（額田中）



▲浅草で外国人にインタビュー（甲山中）

三日目、ついに狛江^{こまえ}第四中との交流となった。どんな子たちなのか不安な気持ちがあったが、「大地讃頌」がもつとうまくなるようにしたかったからすぐく楽しみだった。発声練習は、これまでやったことのないものばかりだった。特に鼻に響かせることが多く、大事なんだなあと思った。この発声法でしゃべり出した声が出せるようにしたい。交流も盛り上がったし、すごくよい時間が過ごせた。

（額田中・三年男子生徒）

歴史にふれる



▲湯島天神（東京都文京区）で合格祈願（葵中）



▲日光東照宮で八丁味噌の贈呈（城北中）

今年の修学旅行スタート



▲大阪城・修学旅行第1陣（東海中）

三月の東日本大震災の影響で、今年の修学旅行の行き先は関西方面に変更された。それでも、意義ある修学旅行にしたいという教師の願いは変わらない。

自然にふれる



▲富士山麓でラフティング体験（東海中）



● 芸術鑑賞会

今年度も芸術鑑賞会を行う。

芸術・文化活動の優れた作品等の鑑賞や体験活動を通して、資質と感性を育み、未来を担う子供たちの健やかな成長を図る。参加対象は、小学校六年生全員と教員である。

今年度も劇団「四季」の「こころの劇場」として、岡崎市で招待公演される。作品はアンデルセンの『はだかの王様』を予定している。

この芸術鑑賞会が、子供たちに大きな感動を与えてくれることを期待している。

- 日時 八月四日(木)・五日(金)
- ・午前の部 十時三十分～
- ・午後の部 十四時～



- 場所 岡崎市民会館
- 演題 「はだかの王様」
- 参加公演は学校ごと指定する予定

● 表彰

◆第22回管楽器個人・重奏コンテスト(東海)

クラリネット八重奏

優秀賞 竜海中学校

クラリネット独奏

優秀賞・ヤマハ賞 豊田市長賞

竜海中二年 貴志絵美

優秀伴奏賞

竜海中二年 澤田郁乃

金管八重奏

優良賞 竜海中学校

マリンバ独奏

優良賞 六ツ美北中 年 天白海見

◆第18回愛知県ヴォーカルアンサンブルコンテスト

中学校部門

金賞 竜海中学校

● 小中学校のようす

平成二十三年度岡崎市内の小中学校の概要がまとまった。五月一日現在の学校や学級数、児童・生徒と教職員の数を表に示した。

● 学校・学級の規模 (市内平均)

	小学校	中学校
1校当たり児童・生徒数	473人	583人
1校当たり学級数	17学級	19学級
1学級当たり児童・生徒数	28人	31人

一校当たりの児童・生徒数は、小学校は昨年とほぼ同じで、中学校が十名増。一校当たりの学級数は小学校が一学級減。一学級当たりの児童・生徒数は、小学校は二名増、中学校は一名増。

岡崎市内の児童・生徒数の合計は、昨年よりも二十五名減少した。教職員数は十七名減となった。

教員補助者は百五十六名で、図書館支援員は二十名である。

図書館支援員は十名増、教員補助者は九名減となった。英語支援員十八名、ALT十九名は昨年と同数である。

● 学年別児童・生徒数 (人)

学年	小学校						中学校		
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	1年	2年	3年
男	1,848	1,837	1,962	1,891	1,925	1,938	1,964	1,878	1,860
女	1,765	1,727	1,791	1,851	1,862	1,819	1,809	1,782	1,793
計	3,613	3,564	3,753	3,742	3,787	3,757	3,773	3,660	3,653

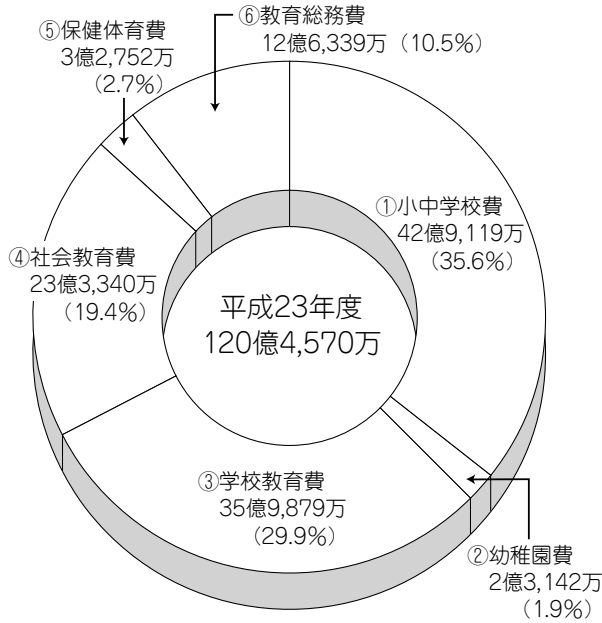
● 児童・生徒・教職員数 (人)

区分	学校数 (校)	学級 <特別支援> (学級)	児童・生徒 (人)			校長・教頭・教諭 (人)			栄養教諭・職員 (人)	事務職員 (人)	養護教諭 (人)
			男	女	計	*養護教諭・期限付講師を含む					
						男	女	計			
小学校	47	803 < 79 >	11,401	10,815	22,216	459	634	1,093	10	50	50
中学校	19	352 < 37 >	5,702	5,384	11,086	396	251	647	4	25	24
合計	66	1155 < 116 >	17,103	16,199	33,302	855	885	1,740	14	75	74

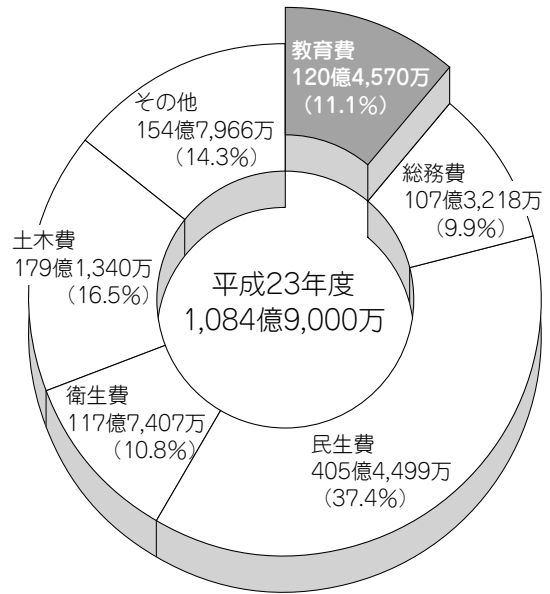
平成23年度 岡崎市の教育予算

誇りと安心をもてる すみよさを 次の10年につないでいく予算

〈教育費の内訳〉



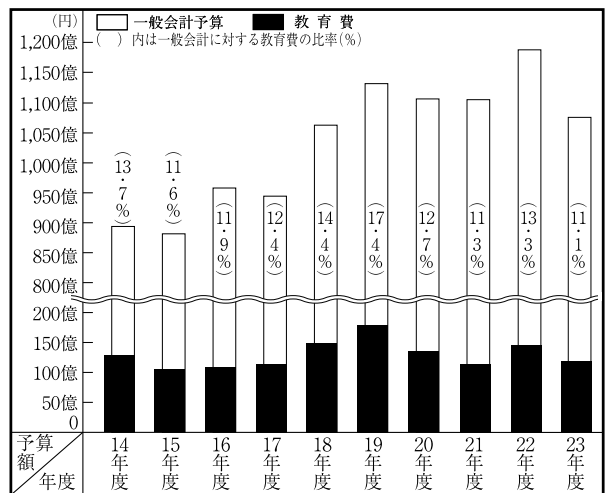
〈一般会計予算〉



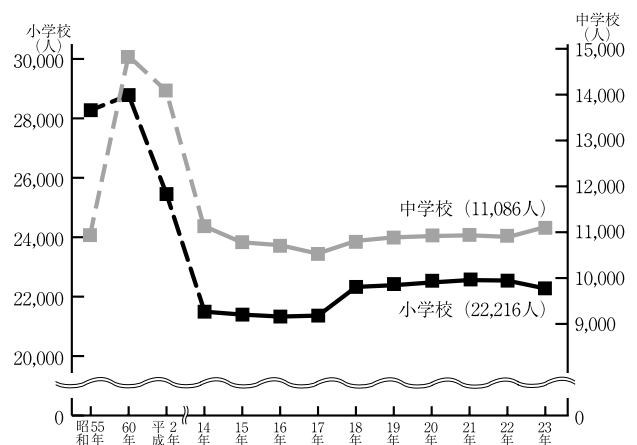
◆平成23年度のあらまし◆

小中学校費	校舎新築 (翔南中) 校舎改築 (豊富小) 便所改修 (矢作北小) プール改築 (城北中) テレビ共聴システム改修 (常磐小・六ツ美西部小・南中・城北中・福岡中・矢作中・六ツ美中・竜海中・北中) 校内LAN整備 (福岡小・竜谷小・山中小・秦梨小・岩津小・矢作東小・矢作北小・六ツ美中部小・六ツ美南部小・夏山小・宮崎小・形埜小・美川中・東海中) 図書室空調設備 (羽根小・六名小・広幡小・矢作北小) 保健室空調設備 (宮崎小・下山小・美川中・城北中・福岡中) 屋内運動場天井改修 (秦梨小・常磐南小・矢作西小・六ツ美南部小・六ツ美中) 体育器具庫改築 (宮崎小) 天井扇整備 (根石小・男川小・美合小・緑丘小・六名小・三島小・竜美丘小・連尺小・広幡小・井田小・愛宕小・生平小・秦梨小・常磐南小・常磐小・甲山中・竜海中・葵中・城北中・常磐中)
学校教育費	行事開催事業委託及び指導研修 教育の振興、研究助成 児童・生徒の健康維持 小中学校各種スポーツ大会開催 健全育成推進 小学校英語指導補助者派遣 総合学習センター設立・管理運営 給食センター施設整備
社会教育費	岡崎市民芸術文化行事開催事業 生涯学習推進事業 青少年健全育成推進事業 文化財保存管理事業 文化財設備活用事業 視聴覚ライブラリー管理運営 少年自然の家管理運営及び施設整備 太陽の城管理運営
教育総務費	奨学資金支給・貸付事業

◆一般会計予算と教育費の推移



◆児童・生徒数の推移 (数字は毎年5月1日現在)



・カ
ツ
ト
梅園小
小原
みなみ

男川での水泳の授業 (昭和53年ごろ)

写真提供：生平小学校

この写真は、生平小学校の三年生以上の児童が、男川で水泳の授業を行っている様子である。昭和三十年ごろからプールが完工する昭和五十六年まで、男川で水泳の授業が行われた。水泳場の設営や水泳授業の手伝いは、PTA役員によって行われた。

昭和三十年代から市内の小中学校にプールが建設されるようになり、昭和三十九年から根石小学校・美合小学校・男川小学校のプールを借用して、一年に二回の水泳指導が行われるようになった。

昭和五十六年には待望のプールが完工し、完工式が九月十六日に行われた。そのとき、初泳ぎをした六年生の男子は「楽しかったことより、水が冷たかった思い出が強く残っている」と当時の様子を語ってくれた。

プールでの水泳指導が行えるようになって、小学校水泳大会にも出場するようになり、子供たちの泳力や体力も伸びていった。

フォトヒストリー 岡崎の教育



多くの被災者、大きな被害を出した東日本大震災。将来、子供たちには、この春からの出来事と復興までのことをきちんと語ってほしい。

先日、緊急地震情報が流れた。以前と比べて、迅速に退避行動をとれるようになった子供たちを見て、頼もしくさえ思えた。今こそ、自助と共助の精神を育てる絶好の機会である。

正月から六月までの半年間の罪穢を清める夏越の祓。この時期、多くの神社で、茅の輪くぐりが行われる。茅草で作られた大きな輪をくぐることで心身を清め、あとの半年間を新たな気持ちで迎えるのだ。

一学期も後半戦。じつくりと学習に取り組みせたり、学級の絆を深めたりしたい。

シオ スア

あれやこれや考えて計画された修学旅行。楽しかったと、どの子にも感じてほしい。仲間の大切さを実感してほしい。感謝の気持ちをもてる機会を設けたい。少しぐらいのピンチは、自分たちで解決する場面があってもいい。大人になって振り返ったとき、輝く思い出の一つであってほしい。教師の願いは尽きない。

住み込みでトレーニングをして、千葉さんと苦楽をともにする選手たち。オリンピックを目指す選手のトレーニングは過酷である。

「諦めなければ何とかなる」強い信頼関係で結ばれた千葉さんの言葉だからこそ、選手は信じて乗り越えることができる。

この本を

- *バタフライ・エフェクト
世界を変える力 アンディ・アンドルーズ
ディスカバー・トゥエンティワン ¥1,800
 - *「進化論」を書き換える 池田 清彦
新潮社 ¥1,470
 - *日本語教室 井上ひさし
新潮社 ¥714
 - *魂を養う教育 悪から学ぶ教育
曾野 綾子
海竜社 ¥1,575
 - *空気は読まない 鎌田 實
集英社 ¥952
- たった一人のがん患者のために病室でコンサートを開いたチェリスト、妻と世界中を旅しながら1500枚もの写真を撮った全盲のカメラマン、がんと闘いながら命の授業をやり通した養護教諭など、著者が医療の現場で出会った素晴らしい人たちが紹介されている。
- 逆境の中にあっても、あえて空気を読まず、人に流されることなく自分の信念を貫き通す生き方が感動的である。
- 六ツ美北部小 澤田 祥明